

みみん

〔題字〕谷川俊太郎さん



せんだい・みやぎNPOセンターニュースレター“みんみん”は、あらゆる組織が社会課題解決をキーワードに出会うきっかけづくりと、活動を発信をすることから、新しい風を起こしていきたいと願っています。



インターンシッププログラムなどを通し、人材育成に情熱を持って取り組んでいらっしゃるお三方を招いての座談会。

当センターで長らく若者支援事業に携わっている小川も加わり、NPOにおける人材育成についてお話をうかがいました。

目次

- P2～3 みんみん座談会「NPOにおける人材育成」
今野純太郎さん(NPO法人Switch)
齊藤信三さん(NPO法人冒険あそび場せんだいみやぎネットワーク)
村上千恵さん(認定NPO法人杜の伝言板ゆるる)
- P4～6 せんだい・みやぎNPOセンター実施事業のご紹介
- P6……新スタッフ紹介
- P7……ライブラリレー 特定非営利活動法人仙台夜まわりグループ
- P8……新規会員・継続会員、ご寄附、編集後記、お知らせ、連絡先等

「NPOにおける人材育成」

～担当者が伝えたい若者育てに関する考えとメッセージ～

東日本大震災などの大地震や記憶に新しい9月の記録的豪雨。地震被害にしる水害にしる、こうした自然災害から建物や堤防などのハードだけで、私たちの安全・安心を担保するには限界があります。

こうした災害が起こるたび、各地でさまざまなリーダーを中心に復旧・復興が進められてきました。自ら課題を見出し、周囲の協力を得ながら解決への道を模索する。そうした人材を発掘・育成することは、当センターでも事業ドメインに盛り込んでいる最重要項目のひとつです。

今回はインターンシップ等を通して若者の人材育成を精力的に行われている、NPO法人Switchの今野純太郎さん、NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの斉藤信三さん、認定NPO法人杜の伝言板ゆるるの村上千恵さんのお三方をお迎えし、人材育成をキーワードに座談会を催しました。

■人材育成において気を付けていること

小川(せんだい・みやぎNPOセンター):皆さんのインターンシッププログラムを拝見しますと、活動現場において若者自身の能動的な関わりから学びや気づきを促すアクティブラーニングの手法を全面的に取り入れているようにお見受けします。当センターでは現場活動だけで満足するのではなく、その活動に必要な周辺知識まで伝えるように気を付けるようにしていますが、皆さんの団体で留意されていることはおありでしょうか。

斉藤:活動日ごとにふり返りを行うのですが、ふり返りのためのふり返りにならないようにしています。こんなことがありましたという小学生の絵日記のようなものではなく、深く掘り下げたものになるように。例えば、ある事案への対応はこのような考え方に基づいていた、ということをお話してもらいます。それに対してスタッフから、自分だったら別の対応をするか?という投げかけがあり、こうしたやりとりを通じてひとつの事案に対する考え方を深めていきます。若者のなかにある「何か」を引き出すような働きかけをすることによって、彼らが何かに気付くふり返りですね。

村上:私たちは活動をしっぱなしにさせないよう気を付けていて、指摘せねばならない部分があれば、すぐその場で指摘するようにしています。各人の個性をみたくて、こまめな指導が必要な人にはこまめに、そのような指導が逆効果な人にはある程度

まとめて対応するようにしたり。また担当者だけでなく周りのスタッフからの意見も聞き、若者と多面的な関わりをするように気を付けています。あとは各人それぞれの考え方で活動をしているので、それをなるべく否定しないということでしょうか。

今野:私たちの団体では、利用

者さんと関わるといった直接業務だけでなく、利用者間の連絡調整とかシンポジウム開催準備といった間接業務もなるべく行ってもらっています。研修に職員と一緒に参加して専門知識を付けてもらうなど、知識を得る場も提供はしていますが、やはり直接業務のなかから学ぶことの方が多く感じますね。

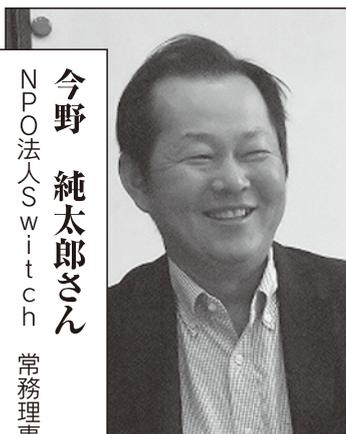
■若者の影響

小川:メンターとしても、彼らの存在から人材育成について深く考える機会をもらっていることと思います。私は団体側も成長するきっかけをいろいろもらっていると実感していて、メンターという役割は、そういう意味でも恵まれているのではないのでしょうか。

斉藤:そうですね。人を育てるということについて、すごく考えるようになりました。自分の力をどう伸ばすかという視点は持っていたのですが、人を育てるとなると全く違うことです。私は育ててもらおうというより、自分で育つ(力を高める)ことも各人の仕事のひとつと考えているので、いざ人を育てる役割となったときに、どうしたらいいんだろうと思ったこともありました。ただ、せっかくNPOで活動しているんだから、企業や行政などでは得られない視点を持って欲しいなど。そのために彼ら一人一人がいま持っている視点や考え方を活かしながら、「自分は自分でいいんだ」と思ってもらえるよう、気を付けています。

団体への影響という意味では、スタッフそれぞれ「人材育成」の概念がバラバラということが見える化されました。決してそれが悪いということではなく、一人一人大事にしているものが違うということですね。

今野:当団体のスタッフは30歳以上しかいなかったのですが、20代の彼らのおかげで、スタッフの意識がすごく変わりました。人にもものを教えるということを通して、自分の立ち位置を再確認するというか。これはすごく有難いですね。ただ、逆にそれをプレッシャーに感じてしまうスタッフもいなくはないんです。若者を受け入れるには大きなエネルギーが要求されますから。でも、おかげで団体全体として「育っていかねば」という空気が生



今野 純太郎さん
NPO法人Switch 常務理事

認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

村上 千恵さん



まれてきたように感じていません。

村上: 団体のなかで自分が一番年下なので、人にもものを教えるということで私自身の意識が随分と変わりました。分かってもらえる伝え方がどのようなものなのかとか、職員なら既に知っていることでも、改めて彼らにいかにか

んと理解してもらおうかなど、さまざま考えるようになりました。「伝える努力」はスタッフ一人一人するようになりましたね。

■育成を行う際に大事にしていること(3つ)

齊藤: 個性を伸ばす。いろいろな人と会う機会を作る。多角的視点からのふりかえりを行う。ここまで言ってみて思うのですが、なかなか難しいですね。まず自分ができているのかと。。。

今野: 好奇心を伸ばす。課題を見つける力は想像力から生まれるので、自分が見えていない範囲までも意識しないと発見できません。2つめは視野を広げる。3つめは行動力を高めるでしょうか。今の若者は、よく分からないものに突き進む力が失われている気がしています。おもしろそうだからとりあえずやってみるではなく、こういう安全な結果が予想されるからやってみようという、安全パイをとる人が多い。ですので、結果ありきではなく、目をつぶって走り出すぐらいの力を育てられたらいいのかなど。やらかし過ぎも困りますが、失敗を経験したことが少ないんでしょうね。

小川: イレギュラーな事態に対応しづらいということでしょうか。自然災害はまさにイレギュラー。そのような、ほんの少し先さえも真っ暗闇なところへ一歩踏み出せる、課題を解決し得る人材の育成ということでいえば、まさに今野さんのご指摘通りだと思います。そういう人材育成が、これからの社会創りの要なんじゃないでしょうか。村上さんはいかがでしょうか。

村上: 出会いと気づきと考えるを挙げます。私たちは中間支援組織なので、当団体を通してしか出会えないような多様なセクターの人との出会いのなかで、将来設計や仕事、人生を考えてもらえたらいいなと思っています。細かいことといえば、活動を行ううえで、より効率的な事務作業の方法などにも気づき、考える、ということも含まれます。

小川: 皆様のご意見すべてに共感します。私が挙げたかったものは既に皆さんに出されてしまっているのですが、あえて他に挙げるとすれば、一つは個の尊重。二つが自由。若者には不必要に枠にはまって欲しくないですね。最後に視点が少し違うのですが、メンターやスタッフが自身の人間力の向上に努めること。これは自分に対しての戒めでもあります。

■NPO活動を考えている人へのメッセージ

今野: 若い頃に牧場でアルバイトをしました。その半年間、共に生活しながら働いた人たちがすごく「変な人」だったんです。この場合の変な人は褒め言葉ですよ。たとえば掃除機がものすごく好きな人とか、とにかくそれまで会ったことのないタイプの人たち。学校を卒業して企業に入社して、ではない人が多かったです。彼らはすごく生き生きしてました。そうした多様な人との出会いにすごく影響を受けました。その時の経験が今の団体事業に結びついています。

人生のなかで大事な出会いが時々ありますよね。ぜひNPOでの活動をそういう機会にしてもらえたらと思います。NPOの人たちには「変な人」が多いので。生き方は決して一つではないということを知れるのは、NPOならではのと思っています。

齊藤: NPOで活動することに興味はあるんだけど、少し不安と思っている人、ぜひトライしてこのおもしろさを感じてみることをお勧めします。いろいろな人に会えることも含め、人は自由に生きられるんだということを知って欲しいですね。NPOで活動

の醍醐味を知ってもらい、挑戦してみたい。自分が大学生の頃を思い返すと、よく「おもしろいことないかな」と自らは動かずに言っていたのですが、逆に自分からチャレンジしておもしろいことを増やしていくこともできるんですよね。世



齊藤 信三さん
NPO法人冒険あそび場
ーせんたいーみやぎネットワーク
プリーリーダー

界はおもしろいぞ、ということを体験できるのがNPOだと思います。そういう手応えがたくさん得られますよ。

村上: 私が大学の頃は、部活やバイトをしてゼミに参加して。それ以上なにかやっている人は「意識高い系」で、私には無理とっていました。でもいざ社会人になって考えてみると、あの当時いろいろやっておけばよかったなと。いろいろな生き方をしている人たちに学生のうちに出会っていたら、もっと視野を広げられていたのかもしれないと思っています。NPOの人は、NPO以外の顔も持っている人も多くとても興味深いので、若い時にしか出来ないことにたくさんチャレンジして欲しいですね。

小川: 確かにNPOでは多様な人との出会いがたくさん得られますよね。人生のルールは決して1本ではないということにも気付けます。とりあえず、目の前にNPOに関わるチャンスが現れたら、躊躇せずに飛び込んでみたら?ということでしょうか。

豪雨対策でお忙しいところ、本当に有難うございました。

(記録・編集 小川真美)

被災地・亘理荒浜地区の復興 まちづくり計画／まちづくり ファシリテーターの仕事

■完成、亘理荒浜地区復興まちづくり計画

秋の風物詩「はらこ飯」で有名な宮城県亘理町荒浜地区。東日本大震災で甚大な被害を受け、今なお復興に取り組んでいます。当センターは、荒浜地区まちづくり協議会（2010年12月設立）に協力する形で、震災直後の2011年9月に住民の復興に対する意見のとりまとめを補助し、町への提言につなげました。そして2014年10月から2015年3月にかけて、今度は復興地区まちづくり計画の策定におけるファシリテーションを務めました。これは今後5年間の荒浜地区のまちづくり計画であり、その計画策定のためにワークショップを計4回実施いたしました。限られた日数と費用のなか、まちづくり協議会事務局と打ち合わせを重ね、ワークショップで住民の意見を掘り下げ、2015年5月に荒浜地区の復興まちづくり計画「荒浜が好き！みんなで作る私たちのふるさと」を完成させ、地区内において全戸配布するに至っています。

■まちづくり協議会とは

まちづくり協議会とは、任意団体であり住民自治組織です。もともとは神戸市において1981年に制度化され、阪神・淡路大震災時において、復興まちづくりの担い手として機能しました。このスキームが東日本大震災の復興まちづくりにおいても活用されています。東日本大震災では、まちづくり協議会とNPOが連携するケースが多くみられます。まちづくり協議会が復興過程において果たす役割は地区によって様々です。広報誌の発行などの情報発信から、ソフト面、ときにはハード面の復興計画にも関わっています。状況に応じて専門性を有するNPOとの連携がみられているのです。当センターがファシリテーター役をつとめた荒浜地区復興まちづくり計画は、ソフト面の機能の設計でした。

■まちづくりファシリテーション

計画では地域産業・地域観光・環境教育の視点を盛り込み、地域内にある資源を再度見つめ直し、賑わいを創出することがクローズアップされています。たとえば特産をつかったご当地メニューの試作やコンテストの実施です。こうした前向きな計画がある一方で、話し合いの中では安心・安全や鎮魂に対する意見も多くあり、その気持ちに寄り添う計画も重要視しています。また未来を担う子ども達への地域の継承といった意見もありました。

当センターでは、まちづくり協議会と共に、復興まちづくり計画策定における取り組みの経緯をまとめた冊子を刊行いたします。タイトルは『まちづくりファシリテーターの仕事―復興地区まちづくり計画読本―』です。

(佐々木秀之・高橋結)

みんなpresents まち・むすび助成金 中間報告

本年4月から助成開始となった第1期「みんなpresents まち・むすび助成金」ですが、半年ほど経過したところでは、早くも10団体の中から「みやぎ夢燈花」、「映画『無法松の一生』切り裂かれた十八分・仙台公演実行委員会」、「Anego」の3団体が、主たる事業の完了を迎えました。これらの様子は、河北新報や日本経済新聞に掲載頂いたため、ご存知の方も多いと思います。

また、当センターにおきましても、月に1回を目途に各団体の活動を取材しており、ブログにてご報告させて頂いております。去る9月には、「みやぎ夢燈花2015」に参加された仙台白百合女子大学のインターンのレポートを掲載しました。NPO活動に携わるのは初めてというお二人による、若い女性らしい繊細さと温かさが込められた瑞々しい文章ですので、未読の方は是非お目通し頂ければと思います。

さて、助成団体に話を戻しますと、残る7団体のうち、2団体は予定通り事業を進めており、5団体が事業内容を変更して、それぞれのペースで着実に取り組んでおられます。

一例としましては、「健康麻雀事業」を実施されている「多賀城市高橋東二区町内会」のブログをご覧頂ければ、事業実施毎に記事と写真を投稿されているため、雀卓を楽しそうに囲む皆さんの様子をご確認頂けるかと存じます。他団体と合わせて、残りの助成期間でどのような活動が繰り上げられるのか、どうぞ温かく見守って頂ければ幸いです。

この半年間の支援を通じて、事業を円滑に進める団体の特徴には、1.活動歴の長さ、2.積極的な広報活動、3.他団体との協調性という共通点があることが分かりました。特に、一般来場者を見込む事業では、戦略的に広報活動を進めることが、事業成功の要となっているようです。当センターでは引き続き、すべての助成団体にとって、より大きな成果につながるような支援を模索しつつ併走して参ります。

今後の予定ですが、11月7日(土)に「第2回交流会」を予定しております。ミニ講座「助成金申請書を作成する際に、最低限押さえておきたいポイント」の他、団体の広報や、協働を進める上でのコツなどを団体同士で大いに話し合える場にしたいと考えております。

なお、第2期の募集期間は、当初予定していた2015年10月30日から、同年11月10日(火)まで延長いたしました。来期の「協働のたね」はどのように蒔かれ、どのように開花するか今から楽しみです。

(高荷聡子)

刊行・「サステナブル・コミュニティビジネス／震災復興社会起業家育成事業・フラスコイノベーションスクールの軌跡」

2014年5月に3年間の実施計画が完了した「震災復興社会起業家育成事業・フラスコイノベーションスクール」では、まとめの冊子を刊行いたします。冊子は、合計100名を数えた受講者のうち、20名のインタビュー記事、スクールで開催した公開講座の抄録、そして当センターの2000年以降の社会起業家育成事業の展開を取りまとめた論考を掲載しています。PART3の石巻スクールからも2名掲載しています。

冊子の刊行にあたり、これまでの受講者のもとを訪ね歩きました。現場で奮闘する受講者メンバー、紙面の都合上、全員を掲載することは叶いませんでしたが、地域に根ざして着実に活動する姿を確認することができました。ヒアリング時にはスクールの講師にも

同行していただき、フォローアップアドバイスも実施いたしました。

さて今回、ヒアリング時に要望のあった「また集まる機会をつくって欲しい」との声を受け、記念冊子のお披露目も兼ねたイベントを実施することに致しました。内容は「社会起業家における6次産業化のトップランナー」である西辻氏を招いたトークイベントです。出席ご希望の方は、佐々木までご連絡ください。

開催日：2015年11月1日(日) 16:00開始

場 所：宮城大学サテライトキャンパス

ゲスト：西辻一真氏(株式会社マイファーム代表取締役)

風見正三氏

(宮城大学教授、当スクール総合プロデューサー)

(佐々木秀之)

加藤哲夫氏資料企画展 アーカイブキャラバンin京都

加藤哲夫氏の命日となる8月26日、京都にて企画展を開催しました。会場は、京都の町屋をイベント会場として提供している「ちおん舎」です。加藤哲夫著『市民の日本語』の「はじめに」の文中にある「対面のかたちでなく(中略)車座になり、さらに和室で、畳の上で座って話をしてみたら…」といったフレーズがありますが、まさにそのような雰囲気での企画展になりました。

午後1時より第1部、「加藤哲夫氏ゆかりの資料を中心とした企画展」を開催。案内人は赤澤清孝氏(ユースビジョン)、野池雅人氏(きょうとNPOセンター)のお二人です。会場に貼りだした加藤氏の直筆ポスターを長時間見つめる参加者の姿もありました。

そして、19時より、第2部・トークセッションを実施。冒頭に書いたように、車座で、参加者も一体となったディスカッションが繰り広げられました。トークセッションは赤澤氏の進行のもと、田村太郎氏(ダイバーシティ研究所)、川中大輔氏(シチズンシップ共育企

画)、桃生和成(せんだい・みやぎNPOセンター)にお話をいただきました。内容は翌年3月に刊行予定の冊子に掲載いたします。今回は11月12日、東京での開催となります。



(佐々木秀之)

「第17回通常総会報告」

9月6日(日)、仙台市市民活動サポートセンターにて、当センター第17回通常総会を開催致しました。当日は出席25名、委任状26名、合計51名の過半数が出席し、定款22条に定める定足数を満たし、総会は成立致しました。議案は以下の2つ。

第1号議案 2014年度事業報告及び決算の承認

第2号議案 2015年度事業計画及び予算の審議・承認

第1号議案については、事業報告に基づき、全体総括を代表理事新川より、みやぎ連携復興センター事業を紅邑、その他事業全体と決算を事務局長の伊藤から報告を行いました。会員の方からは事業の具体的内容や国連防災世界会議について、また事業推進にお

ける人員体制や会員の減少等について質問をいただきました。

第2号議案については、事業計画書と予算書に基づき事務局長よりご説明致しました。事業計画や組織内の人材等へのご質問、ご意見をいただきましたが、予算書に計上していた役員報酬についてご指摘があり、追って内容を明確にすることとなりました。

よって第1号議案は承認されましたが、第2号議案は、計画と全体予算は承認されましたが、予算の一部が凍結との結果となりました。会員の皆さまからのご意見を再検討し、来たる11月8日(日)に再度臨時総会を開催し、改めてお諮りさせていただきます。

(伊藤浩子)

実施事業の紹介

仙台市市民活動サポートセンター ■3つの時間より「ハジマルプログラムプロジェクト」

今年度、市民活動がわかる「3つの時間」を実施しています。実際活動をしている方のお話から市民活動を「知る」時間。一緒にボランティアを「体験する」時間。そして、90分でNPOのいろはを「学ぶ」時間です。

その中の「知る」時間のプログラムとして、8月29日(土)市民活動シアターで「ハジマルプログラムプロジェクト」を開催しました。毎回、活動分野の異なる2団体をゲストに招いてのトークイベント。職業も年代も異なる市民18人が参加しました。

今回のゲストは、震災を機に誰もがアートを楽しめる社会を目指すARCTの事務局長澤野正樹さん、加害者家族の支援に取り組んでいるNPO法人World Open Heartの代表阿部恭子さんのお二人。活動をはじめたきっかけや活動の様子など、活動者の貴重な「生」の声を聞く絶好のチャンスとなりました。

参加者の中には、市民活動に対するイメージがつかめぬ方や敷居の高さを感じていた方もいましたが、実際にお話を聞いてその距離が縮まったようです。また、普段は異なる分野で活動する2つの団体も、共通するキーワードが見つかり、新たな活動が生まれそうな予感。これからの展開が楽しみです。

詳しくはこちら↓

仙台サポセン ブログ

検索

(仙台市市民活動サポートセンター 葛西淳子)

多賀城市市民活動サポートセンター ■子育て中の「あったらいいな」は実現できる!

未就学児を持つママを対象に、9月25日(金)『「あったらいいな」の想いを叶える!ハッピーママサロン』を開催しました。多賀城市は平成25年度出生率が県内3位で、子育て中の方が多く、ママサークルの活動も盛んに行われています。そこで子育て中のママにフォーカスしました。子育て中に「子どもが迷惑をかけないか」と気兼ねすることや、「自分の時間がなかなか持てない」などといった困りごとは、自分たちで解決できること、ということをお伝え、市民活動を始めるきっかけにしようための講座です。

現在、子連れでも気兼ねなく映画を楽しめる仕組みが、全国各地のシネコンに浸透してきています。ゲストには、その火付け役となった「NPOママとシネマ実行委員会」代表の眞野美加さんをお迎えしました。困りごとを解決する「あったらいいな」を探すワークショップでは、実際に受講者が日頃困っていることを挙げ、解決策を考えました。参加者からは「自分でもできることがあると感じた」などの感想がありました。今後は、すでに市内で活動している子育て支援団体と連携しながら、今回挙げた解決策を形にしていこうと目指し、フォローを行っていきます。

詳しくはこちら↓

たがさぼPress

検索

(多賀城市市民活動サポートセンター 小橋萌佳)

本部事務局 ■10月に県内4カ所で開催した「3年後の未来を創りだすNPO向けセミナー&ワークショップ2015」

自団体の運営を改めて見つめ直し、時代の変化に合わせ継続可能な組織となるよう中長期計画を策定するなど、今までとは違ったセミナーとなりました。実は、このセミナーには続きがあり、同地域において自団体の将来を地域の将来に重ね、どの様な未来が描けるのか、ラウンドテーブル(円卓会議)の場を企画しています。日程等決まり次第、HPやブログでお知らせいたします。セミナーに参加できなかった方も、一緒に未来について語りましょう。

また、昨年好評でした「NPO法人事務局セミナー&事務力検定」を今年も開催します。定款の読み方、法務局の手続き、労務の手続き、会計業務や決算についてなど、法人運営時の重要な事務手続きについて基礎から学んでいただけます。研修の最後には、理解度を図る「事務力検定試験」も開催。合格者には合格証書を授与、所属団体はNPO法人としての事務能力の高さをアピールし、信頼性の向上を図ることができます。

今後も当センターでは、様々な角度から組織運営のサポートができるよう取り組んでまいります。

詳しくはこちら↓

せんだい・みやぎ ブログ

検索

(田口博徳)

新スタッフ紹介

大野 加南恵 勤務地:本部事務局

皆様、はじめまして。今年の9月より非常勤職員をしております、大野加南恵と申します。東北学院大学工学部3年生です。昨年度の住友商事東日本再生ユースチャレンジプログラムにおいて、せんだい・みやぎNPOセンターで3か月間活動させていただく機会がありました。それがきっかけとなり、まちづくりや市民活動に興味

を持ちました。現在は主に東北六県のNPO調査事業や、多賀城CommunityCafeの冊子製作などに関わらせていただいているところです。日々、熱い思いを持って活動されている方々に触れ、たくさんの刺激と学びをいただいております。少しでも皆様のお手伝いできれば幸いです。どうぞよろしく願い致します。

活動やニーズ、「志」でつながろう。

ライブラリル



毎号「みやぎNPO情報ライブラリー※」登録団体の中から、ひとつをご紹介します。

※NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりして、地域の市民・企業など社会一般に広く公開・発信する情報発信支援事業です。

今回は

特定非営利活動法人

仙台夜まわりグループ

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1247969742>

事務局次長 青木淳子さんにお話を伺いました。

活動内容

仙台市内で路上生活者の安否確認をするために、たった3名で2000年頃から始めた「夜まわり活動」ですが、現在は働き手と活動範囲が増え、炊き出し・食事会・セミナーもそれぞれ月1回行うようになりました。

また、みやぎNPOプラザで開催する「ゆっくり過ごす会」では、食事と休息の場を提供し、路上生活者の状況把握や関係づくりに努めています。

一方、仙台市の委託事業としては、シャワー・洗濯の機会を提供する衛生改善事業があります。助成事業としては、有償の清掃ボランティア作業を行い、自立促進事業では、雑誌『ビッグイシュー』の販売取次、簡易住宅提供、2013年10月開設の「HELP! みやぎ～生活困窮者ほっとライン～」の他、雇用創出事業として、リユース事業と借用農地での農作業などを行っています。

以上の実施経験を基に、路上生活者の顔と名前を一致させる仕方での出会いと支援を繰り返しています。その上で、当事者の抱える様々な問題に寄り添いながら「できる時に、できる人が、できることを」を基本に、自立への後押しを続けています。



仙台夜まわりグループ
事務局次長 青木淳子さん

現在の活動での、注目ポイント

生活困窮者自立支援法の施行後は、官民を挙げて様々な支援が展開されていますが、相反して、仙台市内の路上生活者は、この数年100人を割らず、自立した数と同数か、それ以上に増える傾向が続いています。

一因として、震災後の復興事業や除染作業をあてに全国から訪れた労働者が、解雇や派遣の更新拒否などの理由で職を奪われ、別な仕事が見つからなかったり、貯蓄や稼ぎが底を突いたことが挙げられます。

ゆとり教育時代には、学校等の研修や講演で啓発する機会が多かったのですが、震災後は少なくなりました。近年の雇用状況の変化から、「求職者が住まいに困っているのを支援してほしい」とハローワークから要請が来ることもあり、行政や学校で普及啓発活動する重要性を感じています。

また最近では、ネットカフェやコンビニ、終日営業店などで夜を過ごす30～40代の不安定居住者が増えており、今後もその数は増えると予想

されます。全体数の把握が困難になる昨今、どのような支援ができるかが課題です。

片や支援されている路上生活者の方々は、月3回の有償清掃ボランティアの他、春は花見客の多い西公園、秋は芋煮会が行われる広瀬川河畔にて、場所取りの学生や酔い潰れて寝ている方の合間を縫いながらゴミ拾いを行い、仙台市内の行楽環境を陰ながら支えています。

読者のみなさんへのメッセージ

路上生活者の方々は、冬になると、夜間に凍死しないようひたすら歩き続け、昼間に施設等が開くと、そこでようやく眠りに就きます。

そのような、昼間にまどろむ姿を見て、「自分は路上生活者にならない」「路上生活者になるのは本人の努力不足」と考える方はまだ多いようです。

しかしながら、路上生活者の背景に共通するのは、親、親族、地域など、周囲の人々との「最後の関係性」を失ったことです。物理的に家が無い「Houseless」という状態ではなく、社会との接点を喪失したからこそ「Homeless」になるのです。それは、核家族化や個人主義が進む現代社会においては、誰にでも起こりうる事態ではないでしょうか。

また、路上生活に陥るまでの過程には、雇用だけでなく、当人の病気や障害といった交錯した問題があるため、必死に努力しても上手く行かず、社会の中で散々傷ついた人を、そのまま再び同じ環境に戻して良いのかという疑念が拭えません。

努力できる条件下にある人と、努力できない条件下にある人が混在する現代においては、誰もが努力できるような条件を整えることも、社会の役割の一つではないでしょうか。

私達は、最初から活動を大きく広げたいと思ってここまで来たのではなく、当事者の切なる願いを叶えたいという一心で活動を続けてきました。これからの時代は、「目に見えない路上の存在」に気付ける方が増え、セーフティネットの厚く深く巡らされる社会となり、私たちの支援活動さえも必要なくなる日が来ることを願っています。

お問い合わせは

特定非営利活動法人

仙台夜まわりグループ

TEL & FAX: 022-783-3123

Mail: yomawari@medialogo.com

次号の団体は

仙台夜まわりグループ 青木淳子さんよりご紹介

特定非営利活動法人 あなたの街の三河やさん

高齢者、障害者、入院患者など、「生活弱者」と呼ばれる方々が、安心・安全・明るい生活を送れるよう、買物代行や安否確認、ゴミ出し等のお手伝い(御用聞き)をご提供し、地域や商店街の活性化にも貢献しています。



(高荷聡子)

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成25・26・27年度会員 (敬称略・順不同、2015年8月1日～10月9日)

(正会員) 大滝精一、新川達郎、西出優子、長谷川公一、沼倉雅枝、茂木宏友、伊藤浩子、(特)Switch、平井俊之、川村志厚、ハリウコミュニケーションズ(株)、(特)でんでん宮城いきいきネットワーク、(特)あかねグループ、渡辺博之、内海裕一、CILたすけっと、桃生和成、鈴木正彦、佐藤わか子、(認特)杜の伝言板ゆるる、(特)ほっとあい、(特)FOU YOUにこにこの家、藤原範典、渡邊兼光、子ども虐待防止ネットワークみやぎ、白川由利枝、(特)ワンファミリー仙台、田口博徳、(特)麦の会、(特)いしのみまきNPOセンター、(特)せんだい杜の子ども劇場、(財)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、東北HIVコミュニケーションズ、(特)いわてNPO-NETサポート、(特)日本ファンドレイジング協会、(特)やまがた育児サークルランド、(特)東北マンション管理組合連合会、青木ユカリ

(準会員) 上野和弘、葛西淳子、和田京子、鈴木素雄、早坂毅、朝田恵美、愛知絢子、(社)日本損害保険協会、(特)ソキウスせんだい、(特)くらしきパートナーシップ推進ひろば、(社福)仙台いのちの電話、鈴木典男、中野勇也、食育NPO「おむすび」、(特)白石うぐいす会、(認特)ふくしまNPOネットワークセンター、谷川真奈美、藤田佐和子、渡辺雅昭、(特)広瀬川の清流を守る会、瀧澤陽子、(公社)仙台青年会議所、男女共同参画センター横浜北、上野裕子、(特)住民互助福祉団体ささえ愛山元

■企業・団体協力 (敬称略) 富士ゼロックス宮城(株) (カラーコピー機を社会貢献価格にて)

■ご寄付ありがとうございます 台風18号大雨被害・緊急募金へのご寄付をありがとうございます。

2件 30,000円(2015年9月1日～9月30日)

加藤哲夫資料アーカイブキャラバンin東京

「加藤哲夫氏資料から東日本大震災後の市民活動・地域づくり・ソーシャルビジネスを考える」

日時:2015年11月12日(木)18:00～21:00

トークセッションゲスト:

公財)日本財団 監査部シニアオフィサー 町井則雄氏

特活)ETIC.事業統括ディレクター 山内幸治氏

アースガーデン代表 鈴木幸一氏

コーディネーター:日本財団CANPANプロジェクト 山田泰久氏

会場:日本財団ビル2階 第1-4会議室

申込:<http://goo.gl/forms/vJE0yQgFMi>

(こちらのフォームから直接お申込みください。)

入場無料

第2回 NPO法人事務局セミナー&事務力検定in仙台

昨年行った好評のセミナー&検定、今年も開催です。日頃の事務局運営の「?(はてな)」を解決し、事務能力をさらに向上させましょう!

日時:2015年11月26日(木)10:00～

場所:仙台市市民活動サポートセンター 6Fセミナーホール
セミナー参加費無料、事務力検定受験料1,000円

せんだい・みやぎNPOセンター臨時総会開催

日時:2015年11月8日(日曜日)13:30～

場所:仙台市戦災復興記念館 4階第1会議室

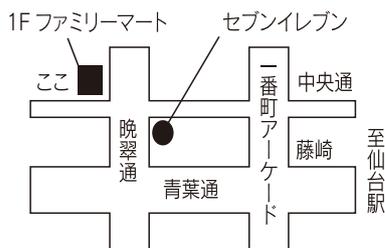
※上記すべてお問合せは当センター大町事務局まで。

連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 7F
TEL : 022-264-1281 FAX : 022-264-1209
E-mail : minmin@minmin.org HP : <http://www.minmin.org/>

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一
新川達郎
紅邑晶子
編集部: 小川真美 遊佐さゆり
田口博徳
発行日: 2015年11月1日
デザイン: 氏家朗



岡元ビル 7F 仙台駅から徒歩 20～25分

編 | 集 | 後 | 記 |

カリフォルニア州バームスプリングスにて、施設をいくつか視察してきた。そのうちのひとつ、運営主体はNPOだという。「利用者が利用料を払えない場合は?」と尋ねると、「その場合は寄附で補う。お金がないという理由で、途中でほおりだすことはしない。」との返答。見渡すと、さまざまな設備にはじまり、建物まるまる1棟が同一者の寄附によって建てられていたりする。アメリカの寄附文化とNPO魂をも垣間見た旅であった。

(OGAWA M)

身近な人が認知症になり、高齢者と暮らす難しさに悩んでいます。そんな時に「脱出老人」という本を見つけました。高齢者自身が言葉の違い、習慣の違い、健康、経済等に、さまざまな不安と問題を抱えていても、フィリピンに移住していきます。フィリピンには、家族や隣人が一人暮らしの老人の面倒を見る習慣が残っていると云います。認知症予備軍と自覚して、安心する場所を作っていくためのヒントを探しています。(ゆうさ)